

豊島西端部にある不法投棄現場。  
見わたす限りの広大な土地で、撤去作業は今も続いている。

(09年1月撮影)



# 豊島 事件は 終わらない

## 豊島事件から見えてきた 持続可能な地域作りへの展望

環境問題やゴミ問題が注目されるようになったのは、ごく最近のことではないだろうか。しかし1970年代半ば、今からおよそ30年以上も前に、環境について、ゴミについて、真剣に考え行動した人々がいる。瀬戸内海に浮かぶ島のひとつ、豊島で暮らす住民たちだ。

1978年から、個人事業者によって約67万トンもの産業廃棄物が不法に投棄された「豊島産業廃棄物不法投棄事件」。当時国内最大規模とも言われたこの事件は、香川県がその責任を認め、産業廃棄物の完全撤去をおこなうという、他に類のない原状回復の策が講じられることとなった。

事件当時は大量生産、大量消費の時代。環境に関する意識も今ほど高くはなく、都市部や工業地帯から出た大量の廃棄物は、過疎地や離島へと運びこまれるケースが少なくなかった。豊島で起こった事件に関しても、事業者が刑事処分となったことで「事件解決」、廃棄物に対する対策もなされないまま収束していくかのように見えた。

は長く、処理には時間がかかると見られている。しかし、豊島の自然はポテンシャルが高い。事件後、産廃現場の海からいなくなってしまったかのように見えたアマモやイカなどの海岸植物も、環境を整備するだけで戻って来た。島の再生を願う住民たちの取り組みもより活発になり、島内外から参加者を募り、豊島事件や環境問題について考える「豊島・島の学校」や「豊島学(楽)会」を開始。自然を取り戻し、自然と共生しながら発展していける地域作りを目指し、住民たちは新たな挑戦の時を迎えている。

しかし、そこに待ったをかけたのが豊島の住民たちだった。自分たちのふるさとの変わり果てた姿を目の当たりにし、この大量の産業廃棄物を島から撤去することを最低限譲れない前提として、県に、世論に、訴え続けた。県庁前での「立ちんぼう」、豊島の実態を訴えるための「メッセーjouオーク」、各所でのデモ、そして住民が心を一つに、まさに一丸となっておこなった、県内100カ所座談会。実に7年にもおよんだ運動の末、2000年の第36回公害調停で、廃棄物及び汚染土壌を2016年度末までに豊島から撤去すること、豊島住民に長期にわたり不安と苦痛を与えたことを認め、心から謝罪の意を表明することなどが調停条項に盛り込まれ、ついに最終合意にいたったのだ。事件当初から実に22年もの歳月が経過。長い長い戦いであった。

2009年現在、事件現場である豊島の不法投棄現場では、今だに撤去作業が続いている。島から撤出された廃棄物の量は全体の40%台。まだまだ先

### 豊島・島の学校

豊島事件の教訓を若い世代に伝えるために、年に1回、法曹、学術、マスコミなどから一流の講師を迎え3日間にわたって豊島でイベントをおこなっています。

<http://www.ne.jp/asahi/sakura/saita/shimanogakkou/>

### 豊島学(楽)会

豊島の自然、人情、歴史、文化、廃棄物問題など、豊島に関するさまざまな事柄を研究しています。豊島住民と共に学び、楽しみ、豊島に寄与する学(楽)会です。どなたでも入会できます。

<http://www.waseda.jp/weri/teshima/>

### アイランダー2009

国土交通省が主催する日本最大級の島の祭典が今年も開催。全国の島々が参加し、ふるさとの魅力をお伝えします。「豊島」に加え、「瀬戸内オーリーブ基金」も参加。大自然に囲まれた島の元気にふれるチャンスです。どなたでも参加できますので、ぜひお越しください。

アイランダー2009  
11月21日(土)~11月22日(日)  
場所：池袋サンシャインシティ  
文化会館2F 展示ホール  
時間：10:00~18:00(2日目は17:00まで)  
詳細はアイランダー  
オフィシャルウェブサイトにて  
<http://www.i-lander.com/>

